



2026年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月13日

上場会社名 ディップ株式会社
コード番号 2379上場取引所 東
URL <https://www.dip-net.co.jp/>代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 富田 英揮
問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 CFO 経営統括本部長 (氏名) 新居 晴彦 (TEL) 03-5114-1177

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年2月期第3四半期の連結業績 (2025年3月1日～2025年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年2月期第3四半期	42,378	△0.6	8,085	△25.7	8,098	△24.9	5,598	△23.9
2025年2月期第3四半期	42,652	6.0	10,881	10.8	10,783	11.1	7,361	7.8

(注) 包括利益 2026年2月期第3四半期 5,646百万円(△21.3%) 2025年2月期第3四半期 7,171百万円(−5.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年2月期第3四半期	106.99	106.97
2025年2月期第3四半期	137.80	137.72

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年2月期第3四半期	49,390	36,854	73.9
2025年2月期	50,506	36,235	71.0

(参考) 自己資本 2026年2月期第3四半期 36,482百万円 2025年2月期 35,836百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年2月期	円 銭 —	円 銭 47.00	円 銭 —	円 銭 48.00	円 銭 95.00
2026年2月期	—	47.00	—	—	—
2026年2月期(予想)				48.00	95.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年2月期の連結業績予想 (2025年3月1日～2026年2月28日)

	売上高	営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	6.4	12,000	△10.5	11,900	△10.2	8,000 △10.6 152.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 一社 (社名) 一 、 除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年2月期3Q	60,140,000株	2025年2月期	60,140,000株
② 期末自己株式数	2026年2月期3Q	7,775,399株	2025年2月期	7,823,092株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年2月期3Q	52,325,390株	2025年2月期3Q	53,421,218株

自己株式につきましては、株式付与 E S O P 信託口が所有する当社株式の数（前連結会計年度末2,010,670株、当第3四半期連結会計期間末1,903,515株）及び役員報酬 B I P 信託口が所有する当社株式の数（前連結会計年度末73,817株、当第3四半期連結会計期間末73,817株）を含めて記載しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

決算補足説明資料は、2026年1月13日（火）に当社ホームページに掲載予定あります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第3四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(追加情報)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	16
(セグメント情報等)	16
(重要な後発事象)	17

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は1997年の創業以来、「私たちdipは夢とアイデアと情熱で社会を改善する存在となる」という企業理念のもと、インターネット求人情報サイトの提供を通じ、顧客企業の人材採用とその活用を支援するとともに、求職者一人ひとりがいきいきと働くことができる環境の構築に貢献すべく事業に取り組んでおります。

2020年2月期より、「Labor force solution company」というビジョンのもと、人材サービスとDXサービスの提供を通じて、労働市場における諸課題を解決し、誰もが働く喜びと幸せを感じられる社会の実現を目指しています。

当第3四半期連結累計期間におきましては、営業力のさらなる強化を図るため、ソリューション体制への変更を行いました。それによる、担当企業の引継ぎ業務が増加した影響で、売上高は423億78百万円(前年同期比0.6%減)となりました。

また、スポットバイトルの先行投資に加え、体制変更に伴う本社オフィスの拡張および2025年新卒社員の採用などの投資を行いました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益は80億85百万円(前年同期比25.7%減)、経常利益は80億98百万円(前年同期比24.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は55億98百万円(前年同期比23.9%減)となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

① 人材サービス事業

人材サービス事業は、アルバイト・パートの求人情報サイト「バイトル」、スポットのバイトサービス「スポットバイトル」、正社員・契約社員の求人情報サイト「バイトルNEXT」、総合求人情報サイト「はたらこねっと」、専門職の総合求人サイト「バイトルPRO」、医療専門職向け人材紹介サービス「ナースではたらこ」、介護職向け人材紹介サービス「介護ではたらこ」を運営しております。これらのサービスにおいては、当社の強みである営業力、サービス開発力、プロモーション力を活かし、ユーザー及び顧客基盤を拡大することを目指しております。

当第3四半期連結累計期間は、担当企業の引継ぎ業務が増加した影響により、新規顧客や過去に取引があつた顧客の契約獲得が鈍化したため、人材サービス事業の売上高は軟調に推移しました。その結果、売上高は373億56百万円(前年同期比0.7%減)、セグメント利益は125億84百万円(前年同期比15.2%減)となりました。

② DX事業

DX事業は、2019年9月から、中堅・中小企業に特化した商品設計により導入が容易でシンプルな機能、かつ中堅・中小企業向け価格設定であるSaaS型のDX商品「コボット」シリーズの提供を通じ、中堅・中小企業のDX化を支援しております。

当第3四半期連結累計期間は、地図検索における表示順位向上により顧客企業の販促活動を支援する「集客コボットfor MEO」の売上が順調に伸長しましたが、応募者との面談スケジュールの自動調整等を行う「面接コボット」や派遣会社の営業先リスト自動作成等の営業支援を行う「HRコボット」のほか、職場紹介動画をはじめとするバイトルの独自機能を活かして企業の採用ページを作成する「採用ページコボット」がメディアサービスの契約社数減少に伴い売上が減少いたしました。その結果、売上高は50億21百万円(前年同期比0.3%減)、セグメント利益は28億57百万円(前年同期比15.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比較して11億16百万円減少し、493億90百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少22億82百万円、無形固定資産の増加8億66百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して17億34百万円減少し、125億35百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少21億68百万円、その他流動負債の増加11億5百万円、その他固定負債の減少2億55百万円によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して6億18百万円増加し、368億54百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加4億32百万円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、78億73百万円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は68億54百万円(前年同期比58億20百万円の減少)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益81億24百万円、減価償却費31億17百万円等が、法人税等の支払額47億60百万円等を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は91億40百万円(前年同期比50億16百万円の減少)となりました。これは主に定期預金の払戻による収入70億円等が、定期預金の預入による支出120億円、無形固定資産の取得による支出35億86百万円等を下回ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は50億13百万円(前年同期比71億58百万円の減少)となりました。これは主に配当金の支払額51億37百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月期の連結業績予想は、アルバイト・パート求人広告市場が前期と同様に緩やかな回復が続く前提としています。売上高は、スポットバイトトル、dip AI AGENT、ソリューション営業体制への進化により、前年からさらなる成長を計画しています。営業利益は、スポットバイトトル等の先行投資により、前期から減益の計画としています。

当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高・利益ともに期初計画通り進捗しており、2025年4月14日の決算短信で公表いたしました内容から変更はございません。

詳細は以下のとおりであります。

■2026年2月期（2025年3月～2026年2月） 連結業績予想

	2025年2月期 (実績)	2026年2月期 (予想)	増減(額)	増減(率)
売上高	百万円 56,386	百万円 60,000	百万円 3,614	% 6.4
営業利益	13,405	12,000	△1,405	△10.5
経常利益	13,257	11,900	△1,357	△10.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,951	8,000	△951	△10.6

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,156,176	15,873,657
受取手形及び売掛金	5,562,822	5,370,221
貯蔵品	12,003	10,904
その他	2,670,010	3,418,507
貸倒引当金	△136,874	△166,854
流動資産合計	26,264,138	24,506,435
固定資産		
有形固定資産	2,667,477	2,901,256
無形固定資産		
ソフトウエア	10,528,317	9,578,319
その他	667,519	2,483,852
無形固定資産合計	11,195,836	12,062,171
投資その他の資産		
投資有価証券	5,110,230	5,026,383
その他	5,313,429	4,937,653
貸倒引当金	△44,499	△43,772
投資その他の資産合計	10,379,159	9,920,264
固定資産合計	24,242,474	24,883,692
資産合計	50,506,612	49,390,128
負債の部		
流動負債		
買掛金	427,602	352,947
未払法人税等	3,302,730	1,134,625
賞与引当金	1,092,240	486,459
資産除去債務	155,793	37,998
その他	6,068,280	7,173,476
流動負債合計	11,046,647	9,185,507
固定負債		
株式給付引当金	651,152	904,209
役員株式給付引当金	163,136	183,674
資産除去債務	797,844	906,101
その他	1,611,851	1,356,195
固定負債合計	3,223,985	3,350,179
負債合計	14,270,633	12,535,686

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,085,000	1,085,000
資本剰余金	7,479,351	7,485,571
利益剰余金	41,067,774	41,499,953
自己株式	△13,968,770	△13,810,931
株主資本合計	35,663,356	36,259,593
その他他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	173,305	222,494
その他の包括利益累計額合計	173,305	222,494
新株予約権	385,940	359,793
非支配株主持分	13,377	12,560
純資産合計	36,235,979	36,854,441
負債純資産合計	50,506,612	49,390,128

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
売上高	42,652,321	42,378,230
売上原価	4,358,248	4,789,944
売上総利益	38,294,072	37,588,286
販売費及び一般管理費	27,412,149	29,502,678
営業利益	10,881,922	8,085,608
営業外収益		
受取利息	5,057	37,505
保険配当金	27,802	22,552
その他	18,330	42,138
営業外収益合計	51,191	102,195
営業外費用		
持分法による投資損失	5,246	5,609
譲渡制限付株式報酬償却損	128,806	76,962
その他	15,336	6,872
営業外費用合計	149,389	89,444
経常利益	10,783,724	8,098,359
特別利益		
新株予約権戻入益	27,121	24,592
投資有価証券売却益	100,645	102,652
固定資産受贈益	72,915	—
特別利益合計	200,682	127,244
特別損失		
投資有価証券売却損	47,962	—
投資有価証券評価損	205,667	101,049
特別損失合計	253,630	101,049
税金等調整前四半期純利益	10,730,776	8,124,554
法人税、住民税及び事業税	3,896,957	2,713,354
法人税等調整額	△528,022	△186,445
法人税等合計	3,368,935	2,526,908
四半期純利益	7,361,841	5,597,645
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	371	△817
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,361,469	5,598,463

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
四半期純利益	7,361,841	5,597,645
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△190,529	49,188
その他の包括利益合計	△190,529	49,188
四半期包括利益	7,171,311	5,646,834
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,170,940	5,647,652
非支配株主に係る四半期包括利益	371	△817

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,730,776	8,124,554
減価償却費	2,630,364	3,117,801
株式報酬費用	383,387	338,643
受取利息及び受取配当金	△5,057	△37,505
支払手数料	6,873	6,852
持分法による投資損益（△は益）	5,246	5,609
投資有価証券売却損益（△は益）	△52,682	△102,652
投資有価証券評価損益（△は益）	205,667	101,049
新株予約権戻入益	△27,121	△24,592
固定資産受贈益	△72,915	—
売上債権の増減額（△は増加）	38,655	193,328
仕入債務の増減額（△は減少）	△26,362	△74,655
未払金の増減額（△は減少）	△773,250	△359,108
契約負債の増減額（△は減少）	△127,085	△137,112
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△30,426	29,252
賞与引当金の増減額（△は減少）	△353,587	△605,780
契約損失引当金の増減額（△は減少）	△61,875	—
その他の資産の増減額（△は増加）	1,283,917	△332,639
その他の負債の増減額（△は減少）	1,514,640	946,646
その他	257,340	389,944
小計	15,526,504	11,579,636
利息及び配当金の受取額	13,689	35,339
法人税等の支払額	△2,864,483	△4,760,046
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,675,710	6,854,928
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△6,000,000	△12,000,000
定期預金の払戻による収入	6,000,000	7,000,000
短期貸付けによる支出	—	△40,000
長期貸付金の回収による収入	150,000	75,000
有形固定資産の取得による支出	△317,913	△393,913
無形固定資産の取得による支出	△3,769,143	△3,586,756
敷金及び保証金の差入による支出	△228,445	△394,446
敷金及び保証金の回収による収入	69,786	163,453
資産除去債務の履行による支出	△12,481	△114,327
投資有価証券の取得による支出	△191,722	—
投資有価証券の売却による収入	175,708	150,716
関係会社株式の取得による支出	—	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,124,210	△9,140,273

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△7,049,898	△85
自己株式の売却による収入	111,634	129,889
ストックオプションの行使による収入	48,527	3,794
配当金の支払額	△5,271,498	△5,137,569
非支配株主への払戻による支出	△2,423	△1,047
その他	△9,000	△8,975
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,172,659	△5,013,993
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,009	16,818
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,608,150	△7,282,519
現金及び現金同等物の期首残高	16,116,841	15,156,176
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,508,691	7,873,657

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当社取締役に関する株式所有制度

(役員報酬B I P信託制度について)

当社は、2016年4月13日開催の取締役会の決議に基づき、取締役(社外取締役及び国内非居住者を除く。)を対象に、当社の中長期的な企業価値向上への貢献意欲を高め、株主との利害を共有することを目的として、「役員報酬B I P信託」制度(以下「B I P信託制度」といいます。)を2016年8月より導入しております。また、同日開催の取締役会において、本B I P信託制度の導入について、2016年5月28日開催の第19期定時株主総会に付議することを決議するとともに、同株主総会において本B I P信託制度の導入に関する議案が承認されました。なお、本B I P信託制度の導入に伴い、取締役に対するストックオプションについては、今後、新規の新株予約権の付与を原則として行わないこととしております。

本B I P信託制度については、2021年6月22日開催の取締役会において、2026年8月まで継続することを決議いたしました。

また、2023年5月24日開催の第26期定時株主総会において、監査等委員会設置会社への移行に伴い、従来の取締役に対する本B I P信託制度に係る報酬枠を廃止し、取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除きます。以下「対象取締役」といいます。)に対する業績連動型株式報酬の報酬枠を改めて設定の上、本B I P信託制度を継続することを承認されております。

(1) 制度の概要

B I P信託とは、米国の業績連動型株式報酬(Performance Share)制度及び譲渡制限付株式報酬(Restricted Stock)制度を参考にした取締役に対するインセンティブプランであり、B I P信託により取得した当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭を業績目標の達成度等に応じて対象取締役に交付及び給付するものです。

当社が対象取締役のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託(B I P信託口)を設定しております。当該信託は、当社が定めた株式報酬規程に基づき当社対象取締役に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社からの第三者割当により取得しております。当該株式報酬規程に基づき、一定の受益者要件を満たす対象取締役に対して、毎事業年度における業績目標の達成度等に応じて決定される株数の当社株式及びその売却代金に相当する金銭を退任等による受益権確定日に交付及び給付します。

(2) 信託に残存する自社の株式

役員報酬B I P信託口が所有する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度228,440千円、73,817株、当第3四半期連結会計期間228,440千円、73,817株であります。

(役員に対する譲渡制限付株式報酬制度について)

当社は、2021年4月7日開催の取締役会の決議に基づき、取締役(社外取締役を除く。)が、企業ビジョン「Labor force solution company」の実現を目指し、株主との価値共有をより一層すすめ、社会価値と経済価値の最大化に取り組むことを目的として、譲渡制限付株式(業績等条件付)を活用した役員報酬制度(以下「役員RS報酬制度」といいます。)を導入しております。同日開催の取締役会において、本役員RS報酬制度の導入について、2021年5月26日開催の第24期定時株主総会に付議することを決議するとともに、同株主総会において本役員RS報酬制度の導入に関する議案が承認されております。

また、当社は、2023年4月14日開催の取締役会の決議に基づき、監査等委員会設置会社への移行に伴う変更をすることおよび譲渡制限期間を2年間延長することについて、2023年5月24日開催の第26期定時株主総会に付議することを決議するとともに、同株主総会において本議案が承認されております。

なお、第24期定時株主総会において承認された議案に基づき譲渡制限付株式を付与された取締役は3名おり、うち1名は第26期定時株主総会にて任期満了において取締役を退任しましたが、その後、当該1名は、2024年5月23日開催の第27期定時株主総会において監査等委員である取締役に選任されるまでの間は、取締役に準ずるもの(執行役員等)として、監査等委員である取締役に就任以降は、取締役として、当該譲渡制限付株式を引き続き保有しております。

(1) 制度の概要

当社取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。以下「対象取締役」といいます。)は、当社取締役会決議に基づき、当社から支給された金銭債権の全部を現物出資財産として払込み、当社の普通株式について発行又は処分を受けることとなります。

なお、譲渡制限付株式の1株当たりの払込金額は、その発行又は処分に係る当社取締役会決議の日の前営業日における東京証券取引所における当社普通株式の終値(同日に取引が成立していない場合は、それに先立つ直近取引日の終値。)を基礎として、当該譲渡制限付株式を引き受ける対象取締役に特に有利な金額とならない範囲で当社取締役会において決定いたします。

また、本役員RS報酬制度による当社の普通株式の発行又は処分に当たっては、当社と対象取締役との間で譲渡制限付株式割当契約(以下「本割当契約」といいます。)を締結するものとし、その内容としては、①対象取締役は、一定期間、本割当契約により割当を受けた当社の普通株式について、譲渡、担保権の設定その他の処分をしてはならないこと、②一定の事由が生じた場合には当社が当該普通株式を無償で取得すること等が含まれることといたします。

(2) 本割当契約の内容

譲渡制限付株式の割当てに際し、当社取締役会決議に基づき、当社と対象取締役との間で締結する譲渡制限付株式割当契約は、以下の内容を含むものとします。

イ 謙渡制限の内容

対象取締役は、6年間の間で当社取締役会が定める期間(以下「譲渡制限期間」といいます。)、当該取締役に割り当てられた譲渡制限付株式(以下「本割当株式」といいます。)につき、第三者に対して譲渡、質権の設定、譲渡担保権の設定、生前贈与、遺贈その他一切の処分行為をすることができません(以下「譲渡制限」といいます。)。なお、譲渡制限期間は、2021年8月27日から2027年4月15日までを予定しております。

ロ 謙渡制限付株式の無償取得

対象取締役が、譲渡制限期限が満了する前に当社の取締役及び当社子会社の取締役その他これに準ずる地位のいずれかの地位からも退任または退職した場合には、当社取締役会が正当と認める理由がある場合を除き、当社は本割当株式を当然に無償で取得します。また、本割当株式のうち、譲渡制限期間が満了した時点において、譲渡制限の解除事由の定めに基づき譲渡制限が解除されていないものがある場合には、当社はこれを当然に無償で取得いたします。

ハ 業績条件等による譲渡制限の解除条件

対象取締役が譲渡制限期間中、継続して、当社の取締役又は当社子会社の取締役その他これに準ずる地位のいずれかの地位にあることを在籍条件とし、職位条件及び業績条件に基づき、本割当株式の全部又は一部について、譲渡制限期間の満了時点(それに先立ち2027年2月期決算短信が公表された場合は、当該公表時点を予定。)で譲渡制限を解除し、譲渡制限が解除されない本割当株式について、当社は当然に無償で取得いたします。

ただし、対象取締役が、当社取締役会が正当と認める理由により、譲渡制限期間が満了する前に当社の取締役及び当社子会社の取締役その他これに準ずる地位のいずれの地位からも退任又は退職した場合には、譲渡制限を解除する本割当株式の数及び譲渡制限を解除する時期を、必要に応じて合理的に調整することいたします。

(3) 対象取締役が所有する株式の総数

前連結会計年度160,000株、当第3四半期連結会計期間160,000株

当社従業員に関する株式所有制度

(株式付与E S O P信託制度について)

当社は、2012年4月12日開催の取締役会の決議に基づき、当社の中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員インセンティブ・プラン「株式付与E S O P信託」制度(以下「E S O P信託制度」といいます。)を2012年5月より導入しております。なお、2023年3月10日開催の取締役会にて本E S O P信託制度の延長を、また、2023年8月1日開催の取締役会にて8月22日に自己株式の処分を行うことを決議しております。

(1) 制度の概要

E S O P信託とは、米国のE S O P(Employee Stock Ownership Plan)制度を参考にした信託型の従業員インセンティブ・プランであり、当社株式を活用した従業員の報酬制度の拡充を図る目的を有するものをいいます。

当社が、当社従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託(E S O P信託口)を設定します。当該信託は予め定める株式付与規程に基づき当社従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を、株式市場から予め定める取得期間中に取得します。その後、当該信託は株式付与規程に従い、信託期間中の従業員の等級や勤続年数に応じた当社株式及びその売却代金に相当する金銭を、退職時に無償で従業員に交付及び給付します。当該信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、従業員の金銭負担はありません。

(2) 信託に残存する自社の株式

株式付与E S O P信託口が所有する当社株式を、信託における帳簿価額（付隨費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度2,462,554千円、2,010,670株、当第3四半期連結会計期間2,331,281千円、1,903,515株あります。

(従業員に対する譲渡制限付株式報酬制度について)

当社は、2020年5月27日開催の取締役会の決議に基づき、当社従業員を対象に、モチベーションをこれまで以上に高め、企業ビジョン「Labor force solution company」の実現を目指し、株主との価値共有をより一層すすめ、従業員一人ひとりが当社の社会価値と経済価値の最大化に取り組むことを目的として、譲渡制限付株式を活用したインセンティブ制度(以下「従業員RS報酬制度」といいます。)を2020年8月より導入いたしました。加えて、2021年6月22日開催の取締役会にて2020年4月2日から2021年5月31日に入社した従業員及び2020年5月1日から2021年5月31日に昇格した従業員への割当てを実施すること、2022年7月13日開催の取締役会にて2021年6月1日から2022年6月1日に入社または昇格した従業員への割当てを実施すること及び、2023年8月1日開催の取締役会にて2022年6月2日から2023年6月1日に入社または昇格した従業員への割当てを実施することを決議しております。

また、本従業員RS報酬制度においては、5年後の業績目標を設定のうえ、その達成を譲渡制限の解除条件としておりましたが、中期経営計画の見直しに伴い、2023年4月14日開催の取締役会の決議に基づき、譲渡制限期間を2年間延長すること及び、割当対象者のうち、DX事業本部に所属する当社従業員の業績条件がDX事業の売上高及び営業利益であったものを、DX事業本部以外に所属する当社従業員と同一の業績条件である連結売上高及び連結営業利益(非連結の場合は、個別売上高及び個別営業利益)とすることを決議いたしました。

(1) 制度の概要

対象従業員は、従業員RS報酬制度に基づき当社から支給された金銭債権の全部を現物出資財産として払込み、当社の普通株式について発行又は処分を受けます。また、本従業員RS報酬制度により当社が対象従業員に対して発行又は処分する普通株式の1株当たりの払込金額は、取締役会決議の日の前営業日における東京証券取引所における当社の普通株式の終値(同日に取引が成立していない場合は、それに先立つ直近取引日の終値。)を基礎として当該普通株式を引き受ける対象従業員に特に有利な金額とならない範囲において、取締役会が決定いたしました。

また、従業員RS報酬制度による当社の普通株式の発行又は処分に当たっては、当社と対象従業員との間で譲渡制限付株式割当契約(以下「本割当契約」といいます。)を締結しており、その内容としては、①対象従業員は、一定期間、譲渡制限付株式割当契約により割当てを受けた当社の普通株式について、譲渡、担保権の設定その他の処分をしてはならないこと、②一定の事由が生じた場合には当社が当該普通株式を無償で取得すること等が含まれることとしております。

(2) 本割当契約の概要

イ 謙渡制限期間

2020年8月27日から2027年4月15日

ロ 業績条件等による譲渡制限の解除条件

対象従業員が譲渡制限期間中、継続して、当社の取締役、取締役を兼務しない執行役員、使用人その他これに準ずる地位のいずれかの地位にあることを在籍条件とし、譲渡制限期間の解除の直前時点の職位に応じて定められる数の本割当株式について、譲渡制限を解除することを職位条件とし、かつ、業績条件に基づき、本割当株式の全部又は一部について、譲渡制限期間の満了時点(それに先立ち2027年2月期決算短信が公表された場合は、当該公表時点。)で譲渡制限を解除し、譲渡制限が解除されない本割当株式について、当社は当然に無償で取得いたします。

ただし、対象従業員が、取締役会が正当と認める理由により、本譲渡制限期間が満了する前に、当社の取締役、取締役を兼務しない執行役員及び使用人その他これに準ずる地位のいずれの地位からも退任又は退職した場合には、譲渡制限を解除する本割当株式の数及び譲渡制限を解除する時期を、必要に応じて合理的に調整するものといたします。

(3) 対象従業員が所有する株式の総数

前連結会計年度880,563株、当第3四半期連結会計期間818,085株

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年3月1日 至 2024年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	人材サービス 事業	DX事業	合計		
売上高					
メディア (求人広告)サービス	35,870,783	—	35,870,783	—	35,870,783
エージェント (人材紹介)サービス	1,685,209	—	1,685,209	—	1,685,209
DXサービス	—	5,037,314	5,037,314	—	5,037,314
その他サービス	59,013	—	59,013	—	59,013
顧客との契約から生じる収益	37,615,006	5,037,314	42,652,321	—	42,652,321
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	37,615,006	5,037,314	42,652,321	—	42,652,321
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	37,615,006	5,037,314	42,652,321	—	42,652,321
セグメント利益	14,838,837	2,479,265	17,318,102	△6,436,180	10,881,922

(注) 1. セグメント利益の調整額△6,436,180千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	人材サービス 事業	DX事業	合計		
売上高					
メディア (求人広告)サービス	35,628,590	—	35,628,590	—	35,628,590
エージェント (人材紹介)サービス	1,514,561	—	1,514,561	—	1,514,561
DXサービス	—	5,021,670	5,021,670	—	5,021,670
その他サービス	213,408	—	213,408	—	213,408
顧客との契約から生じる収益	37,356,560	5,021,670	42,378,230	—	42,378,230
他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	37,356,560	5,021,670	42,378,230	—	42,378,230
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	37,356,560	5,021,670	42,378,230	—	42,378,230
セグメント利益	12,584,403	2,857,538	15,441,941	△7,356,333	8,085,608

(注) 1. セグメント利益の調整額△7,356,333千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。